

令和3年度 福島県立医科大学看護学部 学術委員会企画

「私と研究」を語る会

本学保健科学部が新設され、早一年が経とうとしています。

看護学部では例年学部内の教員による研究紹介のためのインフォーマルな会を開催しております。

今回は、看護学部と保健科学部から4名の先生方をゲストにお招きし、研究内容についてお話しいただくことで、お互いの研究への関心を高め合う機会を設けることといたしました。

今後の学部間の研究内容の理解、研究交流のきっかけとなれば幸いです。皆様お気軽にご参加ください。

日時：令和4年3月16日（水）

16：30～18：00

場所：福島県立医科大学 光が丘キャンパス8号館 3階 N301

対象：看護学部教員、保健科学部教員

事前申し込み：不要

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 看護学部 小児・精神看護学部門 | 大川 貴子 先生 |
| 2. 看護学部 成人・老年看護学部門 | 坂本 祐子 先生 |
| 3. 保健科学部 作業療法学科 | 倉澤 茂樹 先生 |
| 4. 保健科学部 診療放射線科学科 | 長谷川 功紀 先生 |

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催方法等に変更が生じる場合があります。

問い合わせ：中山 仁（看護学部 学術委員会）

email: nakahito@fmu.ac.jp tel: 024-547-1839（内線: 5424）

「令和4年3月16日（水）に、令和3年度学術委員会企画『私と研究』を語る会が 行
われました」

令和4年3月16日（水）に、令和3年度学術委員会企画「私と研究」を語る会が行われました。令和3年に開設された保健科学部と初めての合同開催でした。

今回は看護学部から坂本祐子先生、大川貴子先生、保健科学部から倉澤茂樹先生、長谷川功紀先生の4名の先生をお招きし、ご自身の研究内容についてお話しいただきました。参加者は、看護学部、保健科学部合わせて40名が参加しました。

小児・精神看護学部門の大川貴子先生は「My Lived Experience」というタイトルで、研究課題のきっかけや、東日本大震災後の精神障がい者家族に対するリフレクティングを用いた介入研究についてお話をされました。

熊本チームとの共同研究では、看護学以外の研究者との奇跡の出会いが、現在の研究チームに至ったこと、学問領域の異なる方々との話し合いでは、『看護とは』を伝える重要性について話されました。



成人・老年看護学部門の坂本祐子先生からは「私と研究」というタイトルでお話しいただきました。

看護師時代に出会った術後せん妄、転倒、心不全の患者さんから、現在の課題に至ったことを話されました。先生が体験された、看護の現象や研究結果に対し、義理・疑問・疑心をもって取り組み、研究課題を探索・発展させていらっしゃいました。また、看護研究には、看護系以外の分野にも理解できる「共通言語化」が必要であることも話されました。



保健科学部作業療法学科の倉澤茂樹先生からは「学校コンサルテーション？」というタイトルでお話いただきました。

倉澤先生は、特別支援教育の現状や発達障害による学習・生活上の困難を改善・克服するための子どもを中心とした問題解決アプローチ (CO-OP approach™) の研究をされており、実際に介入前と介入後の結果を用いてご説明されました。今後は、福島県の特別支援教育にも力を注ぐ旨のお話をされました。



保健科学部診療放射線科学科の長谷川功紀先生からは「異分野融合を活かした研究」というタイトルでお話いただきました。

長谷川先生は医・歯・薬・理・工・保健と様々な分野を経験されてきた経歴から、異分野の技術を組み合わせた研究を行い、現在は病理切片の染色や放射性同位元素による腫瘍への薬剤効果の確認など新しい技術開発について話されました。興味のおもむくままの研究が人との縁をつなぎ、現在の研究に至っていることをユーモアを交えてお話しになりました。



4名の先生方のお話から、他分野の先生方と意見を出し合い、相手の専門性を尊重しながら協働することの大切さを再認識し、個々の参加者の研究意欲が高まった講演会でした。看護学部と保健科学部の初めての合同開催となりましたが、今後も研究をはじめ交流を続けていくことを確認し合う機会になりました。

